

1000

航
空
部

軍
需
局

軍
需
局



海 軍 大 臣 殿

第 一 課



研 究 實 驗 成 績 報 告 進 達

一、軍 需 實 驗 研 究

第 一 課 長



但シ昭和九年官房第一四五一號訓令ニ依ル分

(別 冊 添)

總 務 部 長 第 一 課 長

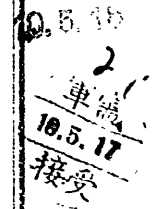
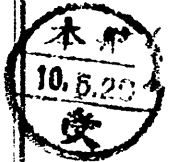
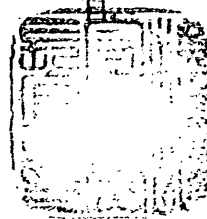
本 件 寫 送 付 先

軍 令 部

昭和十年五月十四日

五月拾三日

横須賀鎮守府司令長官



海

軍

(終)

機密	機密	機密	機密	機密	機密
機密	機密	機密	機密	機密	機密
機密	機密	機密	機密	機密	機密
機密	機密	機密	機密	機密	機密

軍務

軍務司

機密

總務部

第一課長

海軍軍鳩實驗研究

第一課長

研究實驗成績報告進達

第二課長

大臣殿

昭和十年四月二十四日

横須賀鎮守府司令長官

實務

四月廿五日

本件寫送付先
軍令部

(別冊添)

一部

昭和九年官房第一四五一號訓令ニ依ル分

(終)

海軍

本航
10.5.3
受

軍務司
10.4.26
課二第

車需
10.4.28
接受

横須賀鎮守府司令長官



機務局第四號

昭和十年八月十二日

軍務局第二課

海軍々艦實驗研究委員長

横須賀防備隊司令

海軍省軍務局第二課長

殿

研究實驗報告ノ件送付

一軍艦研究實驗成績報告

一通

(終)

海



秘

本冊内容
三枚

研究實驗成績報告
其，十八

(軍鳩實驗研究)

昭和九年四月四日官房第一四五一號訓令

昭和十年三月三十一日

横須賀防備隊

法相成度
理兵燒却
整理本冊用済

1002

1003

送 付 先	部数	送 付 先	部数
軍令部一部長	/	佐世保防備隊司令	/
軍務局二課長	/	舞鶴防備隊司令	/
教育局二課長	/	大湊防備隊司令	/
人事局二課長	/	鎮海防備隊司令	/
航空本部統務部長	/	馬公防備隊司令	/
吳鎮守府參謀長	/	上海特別陸戰隊司令官	/
佐世保鎮守府參謀長	/	新京臨時海軍防備隊司令	/
舞鶴要港部參謀長	/	横須賀海軍航空隊司令	/
大湊要港部參謀長	/	霞浦海軍航空隊司令	/
鎮海要港部參謀長	/	海軍兵學校教頭	/
馬公要港部參謀長	/	海軍通信學校教頭	/
旅順要港部參謀長	/	横須賀海兵團長	/
吳防備隊司令	/	第三艦隊第十一戰隊參謀	/

研究實驗場所

横須賀、吳、佐世保、舞鶴
大湊、鎮海、馬公各防備隊
霞浦、横須賀各航空隊
上海海軍特別陸戰隊

訓令通牒區分

昭和九年四月四日
官房第一四五號訓令
昭和九年六月十六日
横鎮第五六號、一二
實驗研究計畫

研究實驗擔任官

海軍々々實驗研究委員
委員長海軍大佐小島謙太郎
擔任委員海軍大尉諸岡安一

海軍々鳩實驗研究報告 其ノ十八(昭和十三年三月三十一日)

1. 軍鳩實驗研究部隊ノ現狀

飼育所	総鳩数	鷹状鳩数	従事員	使用鳩舎及用品	記 事
横防	308	晝間鳩122 夜間鳩41	大尉(兼) 1 特少尉(イ) 1 ①下士官 1 ②兵 2 兵 5	固定鳩舎 3 假設鳩舎 2 移動鳩舎 1 制規手續ニ依リ 経費及用品ノ供給ヲ受ク	横防ハニ海軍々鳩 用需品定額未設定 ニテ他所轄ニ對シ軍 鳩用特種需品ヲ貸 與(供給)シツアリ ①即ハ臨時増置員
吳防	99	晝間鳩35 夜間鳩	少佐(兼) 1 特中尉(イ) 1 下士官 1 兵 2	固定鳩舎 1 假設鳩舎 3 飼糧以外特種 需品ハ横防ニ供 給ヲ受ク(以下略之)	晝間鳩舎ハ自然腐 朽セルヲ以テ10年度 新築予定
佐防	98	晝間鳩47 夜間鳩37	大尉(兼) 1 兵曹長(イ) 1 下士官 1 兵 2	固定鳩舎 1 假設鳩舎 3	晝間鳩舎ハ腐朽セ ルヲ以テ改築要ス
舞防	100	晝間鳩70 夜間鳩	大尉(兼) 1 兵曹長(イ) 1 下士官 1 兵 3	固定鳩舎 3 假設鳩舎 2	固定鳩舎ノ内2棟 ハ腐朽ニテ改築 要ス
大防	91	晝間鳩37 夜間鳩23	大尉(兼) 1 特少尉(イ) 1 兵 2	固定鳩舎 1 假設鳩舎 1	
鎮防	93	晝間鳩48 夜間鳩	特少尉(兼) 1 特少尉(イ) 1 兵 4	固定鳩舎 1 假設鳩舎 3	假設鳩舎ハ倉庫ニ當 テアルニテ朽蝕シ修 繕要ス 晝間鳩舎ハ10年ノ耐用 セリ
馬防	73	晝間鳩31 夜間鳩	大尉(兼) 1 特少尉(イ) 1 兵 2	固定鳩舎 1 假設鳩舎 2	鳩舎全部白蟻ノ被害 ニテ腐朽ニテ修理ヲ 要ス
横空	121	晝間鳩68 夜間鳩	少佐(兼) 1 特少尉(イ) 1 兵 4	固定鳩舎 1 假設鳩舎 2	無線電信塔ノ建設 ニ依リ全鳩舎ノ移転 ヲ必要ス

飼育所	就鳩数	應使鳩数	従事員	使用鳩舎並備品	記 事
霞 空	87	晝間鳩37	少佐(兼) 1 特中尉(兼) 1 兵 3	固定鳩舎 2 假設鳩舎 1	固定鳩舎ハ光朽木 運ヲ要ス 夜間鳩舎1ハ9年12 月新築(モノナリ)
上 海 特 陸	173	晝間鳩70 夜間鳩48	大尉(兼) 1 中尉(兼) 1 下士官 1 兵 5	固定鳩舎 2 假設鳩舎 2	

2. 各隊ニ於ケル軍鳩通信ノ現状

昭和9年11月ヨリ本年2月ニ至ル毎月通信回数次ノ如ク成績一般ニ
良好ニシテ能ク通信ノ目的ヲ達成セリ。

隊 年 月	横防	呉防	佐防	舞防	大防	鎮防	馬防	横生	霞空	上海 特陸	計
9. 11	57 (5)	36	42	8	3	18	8	25	33	18 (8)	248 (13)
12	123 (2)	16	31	11	12	11	5	9	46	27 (8)	278 (10)
10. 1	188 (8)	11	34	35 (3)	10	12	6	15	16	37 (7)	298 (11)
2	182 (9)	6	43 (3)	37	16	27	14	20	25	13 (1)	393 (13)
計	271 (24)	69	150 (3)	81 (3)	41	68	33	69	120	79 (24)	981 (54)

3. 研究経過並所見

備考(1)内ノ数字ノ通信回数中ニ含ム夜間
通信ヲホス

(1) 局地防衛ニ於ケル軍鳩通信

軍鳩通信ノ精度ニ関シテハ屢報セシ如ク50料以内ニ於テハ特別ノ障
碍ナキ限リ殆ンド100%ナルヲ以テ行動半径ハナル哨戒部隊ノ補助
通信機關トシテ最モ好適ニシテ之等部隊ハ全電ノ有無ニ拘ラズ平時軍

鳩ヲ利用シ極メテ簡單確實ニ通信ノ任務ヲ達成シ得
殊ニ戰時多數ノ徵備船舶白哨戒其ノ他ニ利用スル場合ハ軍鳩
利用ノ適切ナルヲ感ズ
尚遠隔ノ地ニ行動スル船舶ニ腰上鳩ヲ又砲台見張所聽音所
等相互間ニ往復鳩ヲ準備セバ一層有効ナリ

(2) 夜間鳩養成法

本項ハ研究報告其ノ16ニ詳述セシ所ナルモ下記ヲ追加ス
昭和九年廣大演習ニ際シ馬防ニ於テ燈火管制中下
記箇所ヨリ放鳩セル成績次表ノ如シ

放鳩箇所	距離(粉)	放 鳩		返 還		放鳩数	記事
		月 日	時 刻	月 日	時 刻		
東吉山嶼	40	9-21	1930	9-21	2000	$\frac{3}{5}$	21 日月 齡131
裏正角	15	・	・	・	1945	$\frac{4}{4}$	
口候角	6	・	・	・	1945	$\frac{5}{5}$	
第一砲台	10	・	・	・	2000	$\frac{5}{5}$	
裏正角	15	9-22	0330	9-22	0345	$\frac{4}{4}$	
口候角	6	・	0400	・	0415	$\frac{5}{5}$	
東吉山嶼	40	・	0330	・	0415	$\frac{4}{5}$	

上記成績表ニ依レバ近距離ニ於テハ燈火管制中ト雖モ良好ナル成績ヲ示シ月明ナキ暗夜ニ於テ東吉山嶼(40粉)ヨリ放鳩セタルモノハ不達鳩ヲヤシ後日ハ羽ハ台南ニハ羽ハ琉球山嶼ニ於テ発見收容セリ

之ガ理由トシテハ常時訓練ニ於テ燈火ヲ唯一ノ目標トシテ帰巢スルガ故ニ燈火管制範圍外ノ市街光茫ニ吸引セラレタルガ如クシ燈火管制中ニ於ケル訓練ハ軍鳩トシテ最も必要ナルコトハ勿論痛感スル所放タルモ平時之ガ訓練ハ困難ニシテ且又小範圍ノ燈火管制ニテハ効果ナク從ツテ演習時ヲ利用シ僅ニ年2.3回ノ訓練ヲ行フニ過ギズ

(3) 平戦時所要軍鳩数の研究

各部隊ノ現在應役鳩数(基礎訓練ヲ終了シ實用ニ供シ得ル鳩数ニシテ総鳩数ニ非ズ)ハ平時所要数ノ最小限度ニシテ經費ノ關係上已ムヲ得サル状態ナリ

戦時ニアリテハ大凡平時ノ約3倍ヲ必要トスルハ各部隊共ヘ致セル意見ナリ

各部隊ニ於ケル平戦時所要軍鳩数ハ地形通信装置部隊ノ大小等ニ依リ多少見解ヲ異ニスルモ戦時計畫其ノ他種ヲ研究ノ結果應役鳩ノ所要数ハ次ノ如シ

部隊名	現在應役鳩数	平時應役鳩数	戦時應役鳩数	記 事
横 防	2 5 0	2 5 0	5 0 0	基礎機関トシテ此ノ外各部隊ニ補給スベキ軍鳩ヲ準備スルヲ要ス
吳 防	7 0	1 7 0	3 8 0	吳鎮守府戦時計畫ニ依ル
佐 防	7 0	7 0	2 0 0	
舞 防	5 0	2 0 0	4 4 0	連隊機同光機セバ多少減シ得
大 防	5 0	5 0	1 5 0	客島ノ被撃機ニシテ
鎮 防	5 0	8 0	1 3 0	
馬 防	5 0	1 4 0	5 3 0	
横 空	5 0	5 0	5 0	
霞 空	3 0	1 4 0	2 8 0	友部隊遺隊ヲ含ム
上 海 陸	1 2 0	通常警戒場合 1 0 0	戦斗ノ場合 2 2 0	非常警戒場合ハ180戦斗ノ場合ハ陸隊増派ヲ要ス
計	7 9 0	1 2 5 0	2 8 6 8	陸隊増派ヲ要ス

(4) 蕃殖専用種鳩舎設置ヲ要ス

軍鳩ハ訓練ノ關係ト品種低下ヲ考慮スル爲メ蕃殖ヲ夜間鳩
ハ一番仔晝間鳩ハ二番仔ニ制限スルノ已ムナキ事情ニアル
コトハ石研究報告其ノ16ニ述ベタカシ然ルニ訓練ノ頭初
ニ於テハ鳩數ニ相當ノ餘裕アルニ非ラザレバ訓練ノ成果ヲ期シ
難ク爲之毎年民間ノ幼鳩ヲ購入(1羽4円位)シツ、アルモ
之等幼鳩ハニ流乃至三流ノ鳩ニシテ尙且ツ經費ノ關係
上満足スル鳩數ヲ得難キ狀況ナレバ之ガ補給ヘ一助ト
シテ又前項戰時所要鳩數ニ想到スル時ハ横防(基礎機関)
ニ蕃殖専用ノ種鳩舎一棟設置スルヲ最モ得策ナリト估ズ
現状ニ於テハ毎年購入鳩150乃至200羽ヲ必要トスルヲ以テ
該經費2ヶ年分ヲ充當セバ種鳩舎一棟(收容數200羽)
ヲ設置シ得ベシ

(5) 軍鳩術教育

昨年12月3日より同12日ニ至ル10日間准士官以上ノ名ニ又本
年1月16日より2月24日ニ至ル40日間各飼育廠下士官共15名
ニ對シ横須賀防備隊ニ於テ軍鳩術講習ヲ實施シ良好ノ成
績ヲ以テ終ラシ得ル所大ナリト認ム

軍鳩ノ能力如何ハ之ガ飼育訓練ニ直接關與スル軍鳩員ノ素
質並ニ技量ニ俟ツコト頗ル大ナリ又軍鳩員ハ敏感ナル生物ヲ
取扱フ特種配置ナルヲ以テ頭腦明晰責任觀念ニ富ミ
觀察力鋭敏温和ニシテ不撓不屈ノ精神ヲ有シ且ツ普通學
ノ素養アル下士官兵ニシテ相當長年月間連續勤務スルヲ要ス
尚横須賀防備隊ノ如キ基礎機関ニ於テハ飼育訓練及事務
務繁忙ナルヲ以テ准士官以上ノ事務配置ヲ凡ク共一名常置
スルヲ要ス

(終)

本冊内容
五枚

秘

研究實驗成績報告

其，十九

(軍鳩實驗研究)

昭和十年四月一日官房第一三二四號訓令

昭和十年七月三十一日

横須賀防備隊

法相成度
整理
本冊用済
上焼却

1011

先付送	部数	先付送	部数
軍令部一部長	/	佐世保防備隊司令	/
軍務局二課長	/	舞鶴防備隊司令	/
教育局二課長	/	大湊防備隊司令	/
人事局二課長	/	鎮海防備隊司令	/
航空本部總務部長	/	馬公防備隊司令	/
吳鎮守府參謀長	/	上海海軍特別陸戰隊司令官	/
佐世保鎮守府參謀長	/	新京臨時海軍防備隊司令	/
舞鶴要港部參謀長	/	横須賀海軍航空隊司令	/
大湊要港部參謀長	/	霞ヶ浦海軍航空隊司令	/
鎮海要港部參謀長	/	海軍兵學校教頭	/
馬公要港部參謀長	/	海軍通信學校教頭	/
旅順要港部參謀長	/	横須賀海兵團長	/
吳防備隊司令	/	第十一戰隊參謀	/
第三艦隊參謀長	/		

研究實驗場所

横須賀、吳、佐世保、舞鶴
大湊、鎮海、馬公各防備隊
霞ヶ浦、横須賀各海軍航空隊
上総海軍特別陸戰隊

訓令通牒區分

昭和十年四月二日
官房第一三二四號訓令
昭和十年六月二十七日
横鎮第五六號ノ一〇
海軍軍鳩實驗研究計畫

研究實驗擔任官

海軍軍鳩實驗研究委員
委員長海軍大佐小島謙太郎
擔任委員海軍大尉諸岡安一

海軍軍鳩實驗研究報告

其、十九(昭和十年七月三十一日)

1 軍鳩實驗研究部隊ノ現狀

飼育廳	總鳩數	應役鳩數	從事員	使用鳩舎 並ニ需品	記 事
横防	421	晝間鳩 116 夜間鳩 34	大尉(兼)1 特中尉(ハ)1 下士官1 兵2 兵5	固定鳩舎3 假設鳩舎2 移動鳩舎2 制規ノ手續 ニ依リ經費 並ニ需品ノ 供給ヲ受ク	横防ノミニ海軍 軍鳩用需品定 額表設定セラレ 他所轄ニ對シ 軍鳩用特種需 品ヲ貸與(供給) シツ、アリ 印ハ臨時増 置員
吳防	94	晝間鳩 36 夜間鳩 36	少佐(兼)1 特中尉(ハ)1 下士官1 兵2	固定鳩舎1 假設鳩舎3 飼糧以外ノ 特種需品ハ 横防ヨリ供給 ヲ受ク(以下 各廳之同ジ)	晝間鳩舎ハ舊 蝕セルヲ以テ本 年度内ニ改築 ノ豫定
佐防	123	晝間鳩 43 夜間鳩 30	大尉(兼)1 大曹長(ハ)1 下士官2 兵1	固定鳩舎1 假設鳩舎3	晝間鳩舎ノハ 老朽ニシテ改築 ヲ要ス

舞防	136	晝間鳩 51 夜間鳩	大尉(兼) / 兵曹長(イ) / 下士官 1 兵 3	固定鳩舎 3 假設鳩舎 1 移動鳩舎 1	固定鳩舎 1 ハ老朽 = シテ改築ヲ要ス
大防	79	晝間鳩 31 夜間鳩 31	大尉(兼) / 特尉(イ) / 下士官 1 兵 2	固定鳩舎 2 移動鳩舎 1	同上
鎮防	151	晝間鳩 75 夜間鳩	大尉(兼) / 特尉(イ) / 兵 4	固定鳩舎 1 假設鳩舎 3	假設鳩舎 1 ハ倉庫 = 當テアルモ老朽甚シク修理ノ價值ナシ
馬防	90	晝間鳩 31 夜間鳩 8	大尉(兼) / 特尉(イ) / 兵 2	固定鳩舎 1 假設鳩舎 1 移動鳩舎 2	鳩舎全部白蟻ノ被害アルモ特ニ固定鳩舎甚シク腐蝕シ改築ヲ要ス
横空	81	晝間鳩 31 夜間鳩 40	少佐(兼) / 特尉(イ) / 兵 4	固定鳩舎 1 假設鳩舎 2	無線電信塔ノ建設ニ依リ全鳩舎ノ移転ヲ必要トス
霞空	100	晝間鳩 68	少佐(兼) / 特尉(イ) / 兵 4	固定鳩舎 2 假設鳩舎 1 移動鳩舎 1	固定鳩舎 1 ハ老朽 = シテ修理ヲ要ス

上海特陸	137	晝間鳩 63 夜間鳩 45	大尉(兼) / 中尉() / 下士官 / 兵 6	固定鳩舎2 假設鳩舎2	第三艦隊ノ九隻 ニ艦上鳩舎各1 ヲ搭載シ本隊ヨ リ軍鳩及需品ノ 貸與(供給)ヲナ ス
------	-----	------------------------	------------------------------------	----------------	---

2. 各隊 = 於ケル軍鳩通信ノ現状
昭和十年三月ヨリ同年六月ニ至ル
毎月通信回数次ノ如ク成績一般ニ
良好ニシテ能ク通信ノ目的ヲ達成
セリ

隊 年/月	横 防	吳 防	佐 防	舞 防	大 防	鎮 防	馬 防	横 空	霞 空	上特 海陸	計
10-3	46 (7)	5	52	86 (14)	18	26	13	30	25	45 (8)	346 (29)
4	56 (15)	14	45	86 (21)	8	13	16	17	21	58	334 (36)
5	64 (7)	36	35	54 (5)	15	24	30	22	26	46 (9)	352 (21)
6	72 (5)	3	17	45 (4)	34	13	8	27	35	35 (19)	289 (28)
計	238 (34)	58	149	271 (44)	75	76	67	96	107	184 (36)	1327 (114)
備考	()内ノ数字ハ通信回数中ニ含ム夜間通信ヲ示ス										

3. 研究經過並 = 所見

(1) 補助通信トシテノ軍鳩利用法

防備隊 = 於テハ所屬船艇出動 =
際シ無線電信機ノ有無 = 拘ラス
常 = 軍鳩ヲ搭載シテ作業訓練ノ
進捗状況或ハ不時ノ出来事等ヲ
精細且確實 = 本部へ通信スルコ
トヲ得補助通信機関トシテ頗ル
有効ナリ

殊 = 戦時 = 際シ多数ノ小船舶ヲ
徴傭シ港湾防禦 = 配セラル、ニ
當リテハ軍鳩通信ノ利用ハ其ノ
効果大ナルモノト認ム

其ノ他現在防備隊 = 於ケル軍鳩
利用範圍ハ次ノ如シ

イ、水中聽音所、見張所、砲台ヨリノ
補助通信

ロ、鎮守府要港部麾下一般ノ要求
= 應ジ貸與(小船舶ノ出動、陸戰
演習、行軍等 = 利用)

ハ、適時派遣スル防火隊、警衛隊等

ノ 通信

上海海軍特別陸戦隊＝アリテハ
警戒配備＝於ケル各大隊本部陸
戦隊司令部間ノ通信、應急隊ノ
先遣部隊ヨリ陸戦隊司令部ハ、
通信等＝晝夜間共實用シ次ノ如
キ成績ヲ擧ゲ其ノ價值大ナルモ
ノアリ

種 類	平均距離	通達平均所要時		記 事
		昼 間	夜 間	
無線通信	5.5 軒	10 ^m - 0 ^s	9 ^m - 0 ^s	暗號使 用 呼出ヨリ 了解マデ
軍用電話		7-30	6-30	
戦艦通信		6-0	8-30	

同隊＝於ケル使用範圍次ノ如シ

(a) 無線ヲ裝備セザル汽船或ハ微
傭船トノ通信

(b) 行軍部隊間ノ通信

(c) 第三艦隊上海警備＝際シ旗艦
ト陸戦隊間ノ補助通信

(d) 陸戦＝於ケル片候或ハ間諜用

(1) 装甲車強行偵察報告用

(2) 砲隊移動直後ノ對司令部通信用

(2) 強力鳩ノ養成法

通信ハ天候及晝夜ノ如何ニ拘ラズ實施スルヲ要ス、然ルニ鳩通信ニアリテハ從來天候晝夜ヨリ其ノ成績著シク左右セラル、ヲ例トセリ、晝夜ノ問題ハ現今夜間鳩ノ進歩ニヨリ左程考慮ヲ要セザル程度ニ到リタルモ氣象關係就中視界不良及豪雨ハ最モ困難ヲ感ジツツアリ蓋シ之等ハ鳩歸巢性ノ根源タル肉眼視力ヲ遮リ剝ヘ活動意志ヲ甚シク減殺スレバナリ、而シテ視力關係ハ人爲的ニ如何トモナス能ハサル所ナルモ或程度ノ荒天ニ打勝ベキ體力並ニ活動意志ノ誘發ハ飼育訓練ノ如何ニ依リ養成シ得ルモノニシテ實際ノ結果荒天訓練ヲ

課セル所謂強力鳩ハ次ノ場合ニ
於テモ能ク帰巢シ通信ノ目的ヲ
達成ス

イ. 小雨雪及薄霧中熟地ニアリテ
ハ百料以内ノ通信可能ナリ

ロ. 降雨断続視界相當良好ナル場
合ハ百五十料以内ノ通信可能
ナリ

ハ. 風速二十米突以内ノ逆風ニ對
シテハ五十料以内ノ帰巢能力
アリ

以上強力鳩ノ養成ハ衛生ニ留意
スルト共ニ天候ヲ利用シ易ヨリ
難ニ漸次訓練スルモノナルガ故
ニ少クモ六ヶ月ノ期間ヲ要スル
モノナリ

(3) 往復通信鳩ノ研究

往復鳩ノ通信ハ暴風雨雪又ハ害
鳥等ニ依ル特別ノ障礙ハナキ限リ
精度頗ル確實ニシテ速度亦迅速
ナリ

四

鳩ハ一定路ヲ一定時刻ニ飛翔スルガ故ニ害鳥ノ被害ニ依ル失踪率ハ他鳩ニ比シ多キヲ以テ之ガ補充ノ準備ヲ必要トス

横防ニ於テ昭和九年五月ヨリ同十年四月ニ至ル往復鳩十羽(十羽ニ一回往復)ハ冬季ニ至リ害鳥ノ爲漸減シ残鳩四羽トナレリ

往復鳩ハ五十羽以内ノ砲台見張所共ニ他派遣員ヲ要スル箇所等ニ設置セバ平時副通信用トシテ又戦時ノ對應策トシテ軍事上其ノ價值大ナルモノト認ム

(4) 各軍鳩實驗研究廳ニ對スル軍鳩ノ補給

軍鳩數ノ減少ハ直ニ各隊ノ通信能力ニ影響スルヲ以テ軍鳩補充法ニ関シテハ從來屢々研究陳述セル所ナルモノ之ヲ要約スレバ基礎機關ニ種鳩舎ヲ設ケ優良種ヲ購入シ配給能力ヲ増大スルヲ要

ス、從來陸軍ヨリ保管轉換ヲ受
ケタルコトアルモ陸軍ニ於テハ
各師団ニ補給スル関係上受領ス
ル時期遅レ訓練上支障多ク且品
種モ幾分低下スルヲ免レス
現状ニ於テハ毎年150乃至200
羽ノ補給ハ必要ナリ

(終)

五

軍務

横防部機務第四號二〇

昭和十年十二月七日

海軍省鳩實験研究委員長

御前 松村 横須賀防備隊司令

海軍省軍務司等並承

研究實驗報告件送付

一軍鳩研究實驗成績報告

通

終

海軍

昭和六年九月

海軍省
10.12.9
第二課

五枚
本冊内容

秘

研究實驗成績報告
其ノ二十
(軍鳩實驗研究)

昭和十年四月一日官房第一三二四號訓令

昭和十年十一月三十日

横須賀防備隊

法相成度
理上燒却
整本冊用濟

送 付 先	部数	送 付 先	部数
軍令部第一部長	/	吳 防備隊司令	/
軍務局第二課長	/	佐世保防備隊司令	/
教育局第二課長	/	大湊防備隊司令	/
人事局第二課長	/	鎮海防備隊司令	/
航空本部總務部長	/	馬公防備隊司令	/
吳鎮守府參謀長	/	臨時海軍防備隊司令	/
佐世保鎮守府參謀長	/	霞浦海軍航空隊司令	/
舞鶴要港部參謀長	/	舞鶴防備隊司令	/
大湊要港部參謀長	/	上海海軍特別陸戰隊司令官	/
鎮海要港部參謀長	/	第十一戰隊參謀	/
馬公要港部參謀長	/	海軍兵學校教頭	/
旅順要港部參謀長	/	海軍通信學校教頭	/
第三艦隊參謀長	/	海軍水雷學校教頭	/
		横須賀海兵團長	/

研究實驗場所 横須賀 吳 佐世保 舞鶴
大湊 鎮海 馬公 各防備隊
霞ヶ浦 海軍航空隊
上海海軍特別陸戰隊

訓令通牒區分 昭和十年四月一日
官房第一三二四號訓令
昭和十年六月二十七日
横鎮第五六號ノ一〇
海軍軍鳩實驗研究計畫

研究實驗擔任官 海軍軍鳩實驗研究委員
委員長海軍大佐藤森清一郎
擔任委員海軍大尉古谷義二郎

海軍軍九鳥實驗研究報告

其,二十(昭和十年十一月三十日)

1 軍九鳥實驗研究部隊、現狀

飼育廳	総舎数	夜間 昼間 鳩舎	従事員	使用鳩舎 並ニ需品	記 事
横防	四 一 三	夜間 昼間 鳩舎 八三 二二	大尉(兼) / 特尉(兼) / 下士官 1 兵 5 兵 2	固定鳩舎 3 假設鳩舎 2 移動鳩舎 1 制規ノ手続ニ 依リ經費並ニ 需品ノ供給 ヲ受ク	横防ハニ海 軍軍九鳥用品 定額表設定セシ 他所轄ニ對シ軍 九鳥用特種需品 貸與(供給)シ ツアリ 印ハ臨時 増置員
吳防	九 八	夜間 昼間 鳩舎 三四 六一	少佐(兼) / 特尉(兼) / 下士官 1 兵 2	固定鳩舎 1 假設鳩舎 3 飼養以外ノ 特種需品ハ 横防ヨリ供給 ヲ受ク(以下各 廳之ニ同ジ)	晝間鳩舎ハ 腐蝕セルヲ以テ 本年度内ニ新 築スヘク手配 中
佐防	一 一 一	夜間 昼間 鳩舎 四二 九二	少佐(兼) / 特尉(兼) / 下士官 1 兵 2	固定鳩舎 1 假設鳩舎 3	晝間又ニ夜間 鳩舎各ノハ 老朽ニシテ改 築ヲ要ス

舞防	八一	夜間 畫間 三三 三五	大尉(兼) 兵隊(兼) 下士官 兵 3	固定鳩舎 3 假設鳩舎 1 移動鳩舎 1	畫夜鳩舎ノ老 朽ニシテ改築ヲ 要ス
大防	六二	夜間 畫間 二六 二七	大尉(兼) 特中尉(兼) 下士官 兵 2	固定鳩舎 1 移動鳩舎 3	固定鳩舎ノ老 朽甚シク修理ヲ 要ス
鎮防	一二一	夜間 畫間 三二 三五	特中尉(兼) 特少尉(兼) 兵 2	固定鳩舎 1 假設鳩舎 3	假設鳩舎ノ老 朽ニシテ修理ノ價 値ナク改築ヲ要ス
馬防	七〇	夜間 畫間 四九 五九	大尉(兼) 特少尉(兼) 兵 2	固定鳩舎 1 假設鳩舎 1 移動鳩舎 2	鳩舎ノ却蟻害 及腐蝕セルニ付 夜間鳩舎甚シク 強風等危險ナリ 至急改築ヲ要ス
霞空	一〇五	夜間 畫間 二七 三九	少佐(兼) 大尉(兼) 特中尉(兼) 兵曹長(兼) 兵 4	固定鳩舎 2 假設鳩舎 1 移動鳩舎 1	固定鳩舎ノ及移動 鳩舎ノ老朽ニシテ 改築或ハ修理ヲ要 ス(支部分遣隊ヲ 含ム)
上海 特陸	一二四	夜間 畫間 鳩舎	大尉(兼) 中尉(兼) 下士官 兵 6	固定鳩舎 2 假設鳩舎 2	第三艦隊九隻 ニ艦上鳩ヲ搭載 シ需品ノ貸與(供 給)ヲナス

2. 各隊ニ於ケル軍鳩通信ノ現状
 昭和十年七月ヨリ同年十月ニ至ル毎月
 通信回数次表ノ如シ。成績一般ニ良好
 ニシテ能ク通信ノ目的ヲ達成セリ

隊 年 月	横 防	呉 防	佐 防	舞 防	大 防	鎮 防	馬 防	霞 空	上 特 海 陸	横 空	計
10-7	88 (11)	7	28	57 (2)	17	40	14	21	56 (15)	6	331 (28)
8	84 (7)	14	32	170 (10)	27	45	10	34	41 (26)	3	461 (43)
9	82 (6)	16	38	153 (20)	27	25	11 (2)	35	43 (14)	/	430 (51)
10	50 (5)	25	40	48 (4)	18	17	11	31	46 (21)	/	291 (30)
計	304 (29)	62	143	428 (46)	89	127	46 (1)	121	186 (66)	9	1513 (152)
備考	() 内ニ数字ハ通信回数中ニ含ム夜間通信 回数ヲ示ス 上海特陸ハ第三艦隊各艦外ヲ含ム。横空ハ 八月末日ヲ以テ飼育廳ヨリ除カル										

3. 研究經過竝ニ所見

(1) 局地防禦ニ於ケル軍鳩通信ノ研究
 補助通信機關トシテ軍鳩ノ有効ナルコト
 ハ研究報告十九ニ述ヘタル所ニシテ他

本訓練ハ相當頻繁ニ施行シツ、アリ
 テ晝夜兩用鳩ノ利便ナルニ鑑ミ全飼
 育鳩ヲ夜間鳩タラシムルコトヲ希望シツ
 、アルモ特種ノ設備ト晝間鳩訓練ノ約
 ニ倍手数ヲ要スル爲メ人員ノ不足トモ
 依リ現状ニテハ遺憾ナガラ一部分訓
 練ヲ行フニ過ズ 最近大湊防備隊ニ
 テ施行セル戦闘通信訓練中夜間
 通信成績 次ノ如シ

距離(折)	回数	一回放鳩数	平均分速(米)	通信精度	天候	記事
15	5	3	806.5	100	曇夜	
30	6	2	824.2	80	〃	一回有効時間外着

上記訓練ハ幼鳩ヲ交フルモノニシテ速
 度ハ晝間通信ト大差アリ
 夜間通信ハ明暗度及距離ニ比例シ
 テ放鳩数ヲ増減スヘキコト明カナルモ
 本訓練ハ反比セリ

三

(3) 軍鳩通信向上法

本項ハ極メテ廣範圍ニ亙ル事項ナルモ要約スレバ畢竟人ト經費ノ問題ニ外ナラス

人即チ軍鳩員ノ技術優秀ニシテ始メテ軍鳩通信ノ成果ヲ擧ゲ得ベシ然ルニ現状ニ於テハ軍鳩員ノ進路ナキヲ以テ志願者ナク其ノ人ヲ得ルニ極メテ困難ナリ故ニ軍鳩兵ナル制度ヲ設ケ先ヅ優良ナル素質ノ者ヲ選抜シ之ニ徹底的教育ヲ施シ上ツ爾後ノ進路ヲ開拓シテソノ身上ヲ相當保証スルヲ要スルモノト認ム

次ニ運搬機關ヲ完備シテ合理的訓練ヲ施シ軍鳩品種ノ改善ニ努力シ或ハ競技戰間通信訓練等ニ依リ能力向上ヲ圖ルハ概ネ經費ニ寄與スル所多シ

差當リ各飼育廳ニ貨物自動車又ハ三輪車ノ設定及訓練費ノ増額ヲ必要ナリト信ズ

(4) 飼糧、軍鳩能力ニ及ボス影響
 鳩、基本的飼糧ニ就テハ從來屢研究
 サレタル結果生理的各種養素ニ富メル
 數種ノ混合飼糧ヲ給與シツアリ
 鳩ノ好ムモノ必ズシモ可ナラス 体軀ノ
 肥満スル如キモ亦可ナラス 通信鳩ト
 シテ要求スル所ハ鳩体堅ク締リテ底力
 アル元氣旺盛ナル 所謂「スポーツマン」
 型ニシテ之ガ養成ニハ飼糧ノ成
 如何ニ因ル所多シ
 從來海軍ニ於ケル混合飼糧標準
 ハ實驗ノ結果次ノ如ク混合率ヲ變更
 スルヲ可トス

穀 種	從來混合率	改正混合率
白 豌豆	50 %	40 %
麻ノ實	35 %	40 %
王 蜀黍	15 %	10 %
玄 米	嗜好食程度	10 %

本表ハ配合ノ標準ヲ示スモノニシテ
 四季ノ飼育狀態(分離期、蕃殖期、訓

練期、換羽期、休養期、巢立期)
ニ依リ各適當ニ變更スルヲ要シ尚其
ノ他、嗜好食及強壯劑等ニ関シテハ
今後、研究實驗ニ待タントス

(5) 設備竝ニ鳩舎器材需品ノ研究
改善

(1) 軍鳩ハ訓練、關係上審殖ヲ夜間鳩
ハ一番仔、晝間鳩ハ二番仔ニ制限
スルノ已ハナキ事情ニ在リ然ルニ訓練
ノ初頭ニ於テハ鳩數ニ相當餘裕アル
ルニ非ラザレバ訓練ノ成果覺束ナク
爲之毎年民間ヨリ、150乃至200羽
ノ仔鳩ヲ購入シ、600円乃至800円
(一羽四円)ノ經費ヲ投ズルモ、尚
且ツ満足ナル鳩數ヲ得難キ狀況
ナレバ之ガ補給ノ一助トシテ横
防(基礎機關)ニ審殖専用ノ鳩舎
一棟設置スルヲ最モ得策ナリト信ズ
曩ニ横空ノ飼育廳廢止ニ當リ同
隊鳩舎ノ移改築ヲ上申セシモ、實
現スルニ至ラズ依テ來年度是非共

新築(經費1500圓)若ハ前記移
改築、實現ヲ望ム

- (ロ) 各飼育廳=軍鳩訓練用トシテ貨
物自動車、設定ハ極メテ緊要ナリト
認ム

軍鳩通信、向上ヲ期セントセバ連綿
不斷、訓練ヲ必要トシ 訓練、爲ニ
運搬機關、缺クベカラザルコトハ明
白、事實ナリ 現在各廳(横防ヲ除
ク)=ハ軍鳩訓練用トシテ自轉車
一又ハニ台ヲ有スルモ自轉車一台、運
搬力ハ軍鳩二十羽=シ、距離二十
料以上ヲ往復スルコト難事ナリ 況シ
テ坂路多キ地=アリテハ更ニ鳩數ト
距離トヲ減ジ而モ訓練=要スル時
間夥シク手不足ナル軍鳩員ヲ以テ之
ニ充ツルノ難事ナルコトハ明カナリ 是
從來ノ研究報告=於テ屢々運搬
機關設定、必要ヲ高唱セル所以
ナリ

- (ハ) 海軍々鳩ノ實驗研究ハ過去十

数年ニ互リ施行セラル鳩ノ軍事通
信上其ノ價值大ナルコトハ累次ノ報
告ニ述ベタル所ニシテ防備隊竝ニ特
種部隊ノ通信機關トシテ缺クベカ
ラサルモノト認ム

翻テ我陸軍鳩班ノ編制及諸外國
軍隊ニ使用ノ趨勢ヲ見ルモ最早實
験研究ノ名ヲ廢シ經費モ經常費ヨリ
支出シ常備通信機關トナスヲ要ス
斯シテ軍鳩員ノ進路開拓需品関
係ノ煩定員關係教育關係等ノ
諸懸案ヲ解決セザルベカラス

(終)

1037



軍務局

横領第

26號

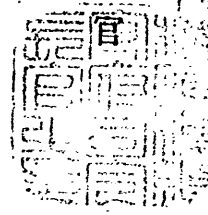
19

昭和十年十二月七日

第二課

海軍大臣殿

横須賀鎮守府司令長官



軍鳩術講習實施ノ件報告

官房第一三二四號訓令ニ依ル海軍軍鳩實驗研究ノ一部トシテ別紙ノ通軍

鳩術講習ヲ實施可致候

(別紙添)

(終)

本件寫送付先

海軍省教育局長

海軍

軍務局

10.12.11

第二課

昭和十年十二月三日

横須賀防備隊司令

左記方案ニ依リ軍鳩術講習日ニ實施ス

軍鳩術講習實施方案

一場 所 横須賀防備隊

二期 間 昭和十年十二月十日間

三講習担任 軍鳩主任、軍鳩主任附、軍鳩主任指定助手

四講習員 横鎮日令第三九六號ニ依リ講習員

五講習事項

(一) 養學之部

科	目	予定時間(時分)	記	事
鳩通信沿革概要	。	三。		

鳩 舍衛生	鳩 ト氣家ト關係	鳩 換羽	使 用法	寄 殖法	訓 練法	鳩 歸巢能力	警 理飼育	便 鳩用語	鳩 記號	鳩 體構造及官能	鳩 形態	鳩 通信能力概要
二 — 。	〇 — 三。	一 — 。	一 — 。	二 — 。	五 — 三。	三 — 。	五 — 。	〇 — 三。	〇 — 三。	一 — 。	〇 — 三。	〇 — 三。
別ニ實業ヲ課ス			別ニ實業ヲ課ス		別ニ實業ヲ課ス		別ニ實業ヲ課ス		別ニ實業ヲ課ス	別ニ淘汰鳩ヲ利用空地解部ヲ行フ		

軍鳩通信戰務大意	〇——三〇	別ニ實業ヲ課ス
軍鳩員教 育	三——〇	
記 録 及 報 告	三——〇	
鳩舎器械取扱及保存法	一——三〇	別ニ實業ヲ課ス

(二) 實業之部

鳩舎監督

各受持ヲ定メ毎日監督セシム

放鳩訓練

近距離(五十料以内)ニ於テ晝夜間放鳩

輸送管理法

放鳩訓練又ハ見學時機ヲ利用シ實施ス

病鳩處理法

傷病鳩淘汰鳩ヲ利用シ實施ス

(三) 見 學

放鳩訓練

鳩輸送管理法等、實習ヲ兼テ左記箇所

ニ各一回

1. 陸軍ニ用鳩調査委員事務所鳩舎及東京民間鳩舎

口蒲田横浜民間鳩舎

(四) 修業試験

修業ニ際シ試験ヲ行ヒ其成績及所見ヲ描須賀
鎮守府司令長官ニ報告スルト共ニ関係各部ニ
送付ス

(五) 講習實施日課豫定ニ別表ニ依ル

(終)

別表

備考	軍鳩術講習員日課豫定表											
	月日	曜	月	齡	午前	午後	別科	夜間	記	事		
12	3	火	12	3	軍鳩術式	軍鳩術	舍外飛翔	同上			放鳩地浦賀	
11	水				軍鳩術	同上	放鳩訓練	同上			放鳩地浦賀	
10	金				放鳩訓練	軍鳩術	舍外飛翔	同上			放鳩地浦賀	
9	土				軍鳩術	同上	放鳩訓練	同上			放鳩地浦賀	
8	日				休	業	同上	同上			放鳩地浦賀	
7	月				軍鳩術	同上	放鳩訓練	同上			放鳩地浦賀	
6	火				軍鳩術	同上	放鳩訓練	同上			放鳩地浦賀	
5	水				放鳩訓練	軍鳩術	舍外飛翔	同上			放鳩地浦賀	
4	金				軍鳩術	同上	放鳩訓練	同上			放鳩地浦賀	
3	土				軍鳩術	同上	放鳩訓練	同上			放鳩地浦賀	
2	日				軍鳩術	同上	放鳩訓練	同上			放鳩地浦賀	
1	月				軍鳩術	同上	放鳩訓練	同上			放鳩地浦賀	

本冊内容
五枚

秘

研究實驗成績報告
其ノ二十

(軍鳩實驗研究)

昭和十年四月一日官房第一三二四號訓令

昭和十年十一月三十日

横須賀防備隊

法相成度
理上六燒却
整本再用濟

1043

送 付 先	部数	送 付 先	部数
軍令部第一部長	/	吳 防備隊司令	/
軍務局第二課長	/	佐世保防備隊司令	/
教育局第二課長	/	大湊防備隊司令	/
人事局第二課長	/	鎮海防備隊司令	/
航空本部総務部長	/	馬公防備隊司令	/
吳鎮守府参謀長	/	臨時海軍防備隊司令	/
佐世保鎮守府参謀長	/	霞浦海軍航空隊司令	/
舞鶴要港部参謀長	/	舞鶴防備隊司令	/
大湊要港部参謀長	/	上海海軍特別陸戦隊司令官	/
鎮海要港部参謀長	/	第十一戦隊参謀	/
馬公要港部参謀長	/	海軍兵學校教頭	/
旅順要港部参謀長	/	海軍通信學校教頭	/
第三艦隊参謀長	/	海軍水雷學校教頭	/
		横須賀海兵團長	/

研究實驗場所 横須賀兵 佐世保舞鶴
大湊 鎮海 馬公 各防備隊
霞ヶ浦 海軍航空隊
上海海軍特別 陸戰隊

訓令通牒區分 昭和十年四月一日
官房第一三二四號訓令
昭和十年六月二十七日
横鎮第五六號ノ一〇
海軍軍鳩實驗研究計畫

研究實驗擔任官 海軍軍鳩實驗研究委員
委員長海軍大佐藤森清一郎
擔任委員海軍大尉古谷義二郎

海軍軍九鳥實驗研究報告

其,二十(昭和十年十月三十日)

1 軍九鳥實驗研究部隊、現狀

飼育廳	総鳩数	應役鳩数	従事員	使用鳩舎 並ニ需品	記 事
横防	四 一 三	晝間鳩 夜間鳩 八三 二二	大尉(兼) / 特中尉(兼) / 下士官 1 兵 5 兵 2	固定鳩舎 3 假設鳩舎 2 移動鳩舎 1 制規ノ手続ニ 依リ經費並ニ 需品ノ供給ヲ 受ク	横防ノミニ海 軍軍九鳥用需品 定額表設定セリ 他所ニ對シ軍 九鳥用特種需品 ヲ貸與(供給)シ ツアリ 印ハ臨時 増置員
吳防	九 八	晝間鳩 夜間鳩 三四 六一	少佐(兼) / 特中尉(兼) / 下士官 1 兵 2	固定鳩舎 1 假設鳩舎 3 飼糧以外ノ 特種需品ハ 横防ヨリ供給 ヲ受ク(以下各 廳之ニ同ジ)	晝間鳩舎ハ 腐蝕セルヲ以テ 本年度内ニ新 築スヘク手配 中
佐防	一 一 一	晝間鳩 夜間鳩 四二 九二	少佐(兼) / 特中尉(兼) / 下士官 1 兵 2	固定鳩舎 1 假設鳩舎 3	晝間及夜間 鳩舎谷ノハ 老朽ニシテ改 築ヲ要ス

舞防	八一	夜間 畫間 鳩 三五 三三	大尉(兼) / 兵曹長(兼) / 下士官 / 兵 3	固定鳩舎 3 假設鳩舎 / 移動鳩舎 /	畫夜鳩舎 / 老朽ニシテ改築ヲ要ス
大防	六二	夜間 畫間 鳩 二七 二六	大尉(兼) / 特中尉(兼) / 下士官 / 兵 2	固定鳩舎 / 移動鳩舎 3	固定鳩舎 / 老朽甚シク修理ヲ要ス
鎮防	一二一	夜間 畫間 鳩 二五 三〇	特大尉(兼) / 特少尉(兼) / 兵 2	固定鳩舎 / 假設鳩舎 3	假設鳩舎 / 老朽ニシテ修理ノ價值ナク改築ヲ要ス
馬防	七〇	夜間 畫間 鳩 九 四五	大尉(兼) / 特少尉(兼) / 兵 2	固定鳩舎 / 假設鳩舎 / 移動鳩舎 2	鳩舎全部蟻害及腐蝕セル等ニシテ夜間鳩舎甚シク強風等危険ナリ至急改築ヲ要ス
霞空	一〇五	夜間 畫間 鳩 二七 三九	少佐(兼) / 大尉(兼) / 特中尉(兼) / 兵曹長(兼) / 兵 4	固定鳩舎 2 假設鳩舎 / 移動鳩舎 /	固定鳩舎 / 及移動鳩舎、老朽ニシテ改築或ハ修理ヲ要ス(支部分違米ヲ含ム)
上海特陸	一二四	夜間 畫間 鳩 鳩	大尉(兼) / 中尉(兼) / 下士官 / 兵 6	固定鳩舎 2 假設鳩舎 2	第三艦隊九隻ニ艦上鳩ヲ搭載シ需品ノ貸與(供給)ヲナス

2. 各隊ニ於ケル軍鳩通信ノ現狀
 昭和十年七月ヨリ同年十月ニ至ル毎月
 通信回数次表ノ如シ。成績一般ニ良好
 ニシテ能ク通信ノ目的ヲ達成セリ

隊 年 月	横 防	吳 防	佐 防	舞 防	大 防	鎮 防	馬 防	霞 空	上 特 海 陸	横 空	計
10-7	88 (11)	7	28	57 (2)	17	40	14	21	56 (15)	6	334 (28)
8	84 (7)	14	32	170 (10)	27	45	10	34	41 (26)	3	460 (43)
9	82 (6)	16	38	153 (30)	27	25	11 (7)	35	43 (14)	/	430 (51)
10	50 (5)	25	45	48 (4)	18	17	11	31	46 (21)	/	291 (30)
計	304 (29)	62	143	428 (46)	89	127	46 (1)	121	186 (76)	9	1515 (152)
備考	() 内ニ数字ハ通信回数ヤニ含ム。期間通信 回数ヲ示ス 上海特陸ハ第三艦隊各艦ノ分ニ含ム。横空ハ 八月末日ヲ以テ飼育廳ヨリ除カル										

3. 研究經過竝ニ所見

- (1) 局地防禦ニ於ケル軍鳩通信ノ研究
 補助通信機關トシテ軍鳩ノ有効ナルコト
 ハ研究報告十九ニ述ヘタル所ニシテ他

通信法、企及シ能ハサル長所特徴ヲ有スルヲ
以テ如何ニ科學的通信法、發達現ルモ三
千年ノ歴史、有スル鳩通信、今日尚存在スル
所以ニシテ海軍トシテハ局地防禦或ハ陸戰
隊ニ缺クヘカラサル通信機關ト認ム
猶通信精度ニ関シテハ行動半徑小ナル哨戒
部隊ニ於ケルモノハ數回ノ戰鬪通信及往復鳩
訓練ニ依リ、又遠隔ノ地ニ於テハ艇上鳩並ニ移
動鳩舎鳩ノ訓練ニ依リ研究證明サレタル所ニシ
テ特別ノ障礙ナキ限リ殆ンド100%ナリ

(2) 夜間鳩ノ養成法

大正十三年我海軍ニ獨創サレタル夜間鳩
ノ養成法、爾來長足ノ進歩ヲ遂ゲ小ナル
通信距離内(百軒迄ハ可能)ニ於テハ精度
殆ンド確實ニシテ鳩界ニ誇ルヘキ成果ヲ
擧ゲツハアリ。近時陸軍及民間ニ於テモ之
ガ研究ヲ始ムルニ至リ養成法ノ問合ヒ或ハ
實地見學ニ來ルモノ多シ
海軍ニ於テハ常時夜間通信ハ晝間ノ如ク
利用スル機會少キモ各隊共有事ニ備ヘ